

平成28年度第4回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会 次第

日時 平成29年 3月14日(火) 午後2時～4時

会場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟 2階 学習室1

1 開会

会議の公開について 次第説明・資料確認

2 館長挨拶

3 (議事1) 平成28年度事業報告について

- (1) 青少年科学館事業報告(2月末現在) 資料1
 - ・各事業の実施状況について報告
- (2) 第3回専門部会(視察)実施報告 資料2
 - ・平成28年11～12月に実施した委員視察について報告

4 (議事2) 平成29年度事業計画について

- (1) 学芸事業10年計画における平成29年度事業計画 資料3
- (2) 進行管理・評価表における平成29年度事業計画 資料4
- (3) 平成29年度予算・事業概要 資料5

5 その他

- (1) 平成29年度の専門部会開催スケジュールについて 資料6
 - ・平成28年度事業評価の作業、スケジュール等について説明
- (2) その他

6 閉会

【資料】

- ・資料1: 「平成28年度 事業実施報告」(2月末現在)
- ・資料2: 「第3回専門部会実施報告」
- ・資料3: 「学芸事業10年間計画」
- ・資料4: 「平成29年度 事業進行管理・評価表」
- ・資料5: 「平成29年度 予算・事業概要」
- ・資料6: 「事業評価スケジュール(案)」
- ・その他配布物: 科学館だより、事業・イベントチラシ類

平成28年度第4回 川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会 摘録

日 時 平成29年3月14日(火) 14:00~16:00

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟2階 学習室1

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (社会教育) 岩切貴乃 (公募市民) 渡邊敬三(部会長)、服部公俊
(学識経験者) 山上明、瀬能宏、松島義章 (教育職員) 三上勉、上杉岳哲
(家庭教育) 眞壁総子
出席委員: 9名
欠席委員: 1名(学識経験者) 洞口俊博
- (2) 事務局 島田館長、大泉、川島、弘田、小鍛冶(生田緑地運営共同事業体)、竹下(司会進行)
- (3) 傍聴者 0人

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

2 館長挨拶

- 昨年11~12月に第3回専門部会を視察として実施し、委員の方々のご都合に合わせてご来館いただき、展示や施設、各種事業を担当職員の案内で見学していただいた。また、12月4日(日)には、特定非営利活動法人 かわさき自然調査団の第8次調査報告会が開催され、第1部では調査団からの報告、第2部では専門部会の瀬能委員に基調講演を行っていただき、当館の川島学芸員も講演を行った。大勢の来場があり、有意義な報告会となった。
- 平成29年度には、日本民家園が開園50周年を迎える。4月29日(土)の記念式典を皮切りに、年度を通じて様々な記念企画を実施する予定である。50周年を生田緑地全体で盛り上げるため、当館としても民家園及び各施設との連携・協力を努めたい。
- 現在、生田緑地及び3博物館施設の管理運営、広報業務で導入している指定管理については、平成29年度末で5年間の管理期間が終了する。次期指定管理に向けた準備を進めていく。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、川崎市を挙げて障がい者や外国人への対応を「かわさきパラムーブメント」として取組み中であり、当館でもバリアフリーの検証、ソフト面での対応などを予定している。
- 今回の専門部会では、平成28年度事業の進捗状況報告、平成29年度の事業計画について報告するとともに、今後の専門部会の開催スケジュール等について、ご意見をいただきたい。

以下、渡邊部会長が議事進行

3 議事1 平成28年度事業報告について

部会長 平成28年度事業報告について、事務局より説明をお願いしたい。

- 2月末までの進捗状況(事業内容、実施回数等)について、事業ごとに説明、質疑応答(竹下)
資料: 資料1「平成28年度事業報告(2月末現在)」

【質疑応答】

（１ 展示事業）

委員 地層の常設展示について、床のガラス張り展示（トドの化石出土状況）が少々暗くて見づらい。もう少し明るい方がよいと思われる。

事務局 今後の展示保守業務実施の際に検討したい。

委員 科学の新規事業「サイエンスショー」は、平成29年度以降も実施予定か。

事務局 継続して実施する計画である。

委員 科学の川崎市中学校理科優秀作品展について情報提供したい。1月に科学館で展示された優秀作品は、今夏に全国の中学校連合文化祭で展示される予定である。なお、本市では毎年数点が優秀作品として全国に出るが、そのうち地学分野ではほとんどが生田緑地の地層「飯室層」を題材とし、科学館の展示・調査研究報告を参考に、生徒が作品を制作している。科学館の果たしている役割は極めて大きいと感じる。

（２ 教育普及事業）

事務局 科学について補足説明。新規の「科学であそぼう！親子実験教室」は2回とも応募多数で抽選となった。欠席もほとんどなく、非常に人気が高かった。

委員 学校連携事業の「ゆうゆう広場科学実験教室」について、「年間24回の教室開催要請のうち、12回を出前授業により行っている」とのことだが、どのように実施しているか。

事務局 ゆうゆう広場（適応指導教室）は市内に6か所あり、それぞれが4回ずつ実験教室を企画している。各広場で4回中2回を科学館で、2回を広場に講師が出向いて出前教室を実施している。

委員 「その他」の「出前教室」は、館職員が実施団体からの依頼により実施しているとのことだが、科学館が主体なのか、それとも実施団体が主体として科学館が希望を受けるのか。

事務局 館の職員が出向いて事業を行っている。今年度は土橋小学校より夏休み前に理科（天文、自然、科学）で2日間何かやってほしいという要請があり、館より内容を提案、学校と協議のうえ実施している。

部会長 館から学校へ出前教室の内容を示すのではなく、研修等で学校が科学館に来た際に、学校から要請するということか。

事務局 小・中学校の理科学研究会場で事業について紹介し、希望があれば対応すると伝えている。

委員 依頼を受けて行う講演会等との違いがわかりづらい。通常、依頼により出向いた講演会の出席者数は館の事業の参加者数にカウントしない。教育普及事業として位置付けるのであれば、より明確に出前の内容を示して募集するという形の方がよいのではないか。

(3 調査研究事業) (4 収集保存事業)

委員 天文の調査研究事業で「川崎市域の星の見え方調査」を市民参加により実施しているとのことだが、どのくらいの市民が参加しているのか。また、どのように広報しているのか。

事務局 年に夏・冬の2回、1週間程度の期間に同時観測を依頼している。今年度は天候不順により夏

は2件、冬は10件程度の参加となっている。広報については、当館ホームページ、館内チラシ配布による。

委員 興味深い調査であり、今後は学校関係にも情報を流してほしい。

(5 ネットワーク事業)

委員 自然の「関係機関との協力」で他館への標本資料貸出を行っている。貸出には研究利用目的のほか、展示・教材の提供という目的もある。収集資料の自館展示以外での活用として、「ネットワーク」よりは「収集保存」として実績を整理した方がよいのではないかと。こうした統計があれば館の評価にもつながる。

事務局 当館ではこれまで資料貸出について「収集保存」という視点での統計整理を行っていなかったため、今後は貸出のほか収蔵庫の利用実績も含め「収集保存」として整理し、「年報」等で報告するようにしたい。

部長 学校とのネットワークについて、理科教員への情報提供などコンピュータのネットワークはどうなっているか。

事務局 市立学校のコンピュータネットワークの構築・運用は、市の総合教育センターが行っており、そのサーバーに学校版当館ホームページを作成することも検討したが、現在の一般向けに加えて学校版ホームページも開設・管理するのは、現状では負担が大きい。これまでも小中学校の理科研究会・研修会の場を利用して理科教員向けに情報提供を行っており、今後も充実させていきたい。

部長 ネットワークの充実により、科学館の諸事業について理科教員に広く情報提供し、学校連携を推進できると思われるので、引き続き検討をお願いしたい。

(6 管理運営)

委員 入館者数及びプラネタリウム観覧数が平成27年度に比べて落ちている。原因の1つとして、夏場8、9月週末の悪天候が挙げられていた。自分の所属する県立生命の星・地球博物館では、逆に悪天候時に入館者が多く、晴天時には少ない傾向がある。プラネタリウムも含めて屋内施設だが、どのように分析しているか。

事務局 市内有数の緑地公園内に位置しており、週末の好天時に家族連れ等で緑地を訪れ、博物館にも立ち寄りという人が多い。雨天時等、緑地全体の人が少ない日は、館の入館者、プラネタリウム観覧者も少ない傾向がある。

事務局 生田緑地で9月に「ピクニックデー」というイベントが実施されており、好天に恵まれた平成27年度は、年間でも上位の入館数を記録した。一方、平成28年度は当日の天候が悪く緑地全体の来場者が少なかったこともあり、前年度に比べて大幅に入館者数が減った。

委員 天候に関わらず来館者があるのが理想であり、展示や事業の魅力で来館者を集めるという工夫が必要。なお、前年度比較だけでなく、数年間のデータをグラフ化して示してほしい。

委員 「東芝未来科学館」でも、平成27、28年度の比較で一番入館者が減ったのが8月だった。他館に聞いても同様の傾向が見られたとのことで、天候だけでなく、リオ・オリンピックの影響はあったと思われる。

委員 県立生命の星・地球博物館は展示規模も大きく、箱根という観光地を控え、車での回遊性があり、屋内施設として来館者が見込めるのではないかと。一方、青少年科学館は展示規模・収容人数も小さい。展示物だけで勝負するのではなく、子ども・親子連れ向けイベントや体験教室等の充実も図っている。こうした客層がターゲットとなると、どうしても天候に左右される面があると思われる。

委員 県立生命の星・地球博物館は10月に入館者が多い。箱根の秋の行楽シーズンのピークは11月だが、初めから来館を予定に入れた周遊はさほど多くないと思われ、天気が悪いと入館者が多くなる傾向はある。また、年間約100日間の企画展示を開催しているが、大人向け、子ども向けなど内容により増減が大きい。常設展示だけの入館者や、大涌谷の火山活動ほか社会情勢等の影響についても分析が必要である。

科学館においても、周囲の状況に影響されるのであれば、アンケート調査の実施等により、展示見学目的の来館者数を把握するなど、来館者の情報収集・分析が必要と思われる。

4 平成28年度第3回専門部会（視察）実施報告について

部会長 実施報告は資料2のとおり。確認のうえ強調したい事項、確認事項等あればお願いしたい。⇒ 特になし。

●第3回として平成28年11～12月に実施した施設及び事業視察の報告。委員の希望に合わせて計8日間、15件の施設・展示見学、事業視察を実施し、7名の委員が参加。

資料： 資料2「平成28年度第3回青少年科学館専門部会 委員視察報告」

5 議事2 平成29年度事業計画について

部会長 平成29年度事業計画評価について、事務局より説明をお願いしたい。

(1) 学芸業務10年計画における平成29年度事業計画

(2) 進行管理・評価表における平成29年度事業計画

●(1)平成24～33年度までの10年計画における29年度及びその後の具体的な事業計画について。(2)進行管理・評価表における平成29年度事業計画として、拡充・新たな取組み等について、(1)(2)続けて説明、質疑応答

資料： 資料3「学芸業務10年計画における平成29年度事業計画」

資料4「進行管理・評価表」

●新規事業補足説明「天体観察講座」

これまでアストロテラスの望遠鏡を活用した天体観測体験事業「星空教室」を実施しているが、参加者の多くが親子連れや初心者である。もう少し深く学びたいという要望を受け、新たに年2回実施を計画している。 資料4「進行管理・評価表」5ページ

●新規事業補足説明「ものづくり体験教室」

長年実施されてきた連続講座「発明教室」が、30周年をもって実施団体が当館での活動を平成28年度末で終えることとなった。これに続く年5回の連続講座として計画。内容については、今後つめていく。資料4「進行管理・評価表」6ページ

【質疑応答】

部会長 平成29年度事業計画について、事務局より資料3、4により説明があった。これを踏まえて資料5に平成29年度予算及び新規・拡充事業がまとめられている。これまでの説明及び資料5「平成29年度青少年科学館事業計画」も確認のうえ、各委員会から質問・意見を欲しい。

(2) 教育普及事業「バックヤードツアー（自然・新規）」

委員 第3回専門部会で収蔵庫を見学し、大変興味深かった。一般向けツアーは年3回計画とのことだが、1回あたりの定員は何人か。

事務局 スペースも限られており、安全も考慮すると15人が限度と考えている。

委員 バックヤードツアー実施の課題として、まず防虫剤等の臭気があり、過敏な人（特に子どもなど）への配慮が必要である。また、そもそも収蔵庫が見学を想定した設計ではなく、人が入ることによる収蔵資料への負荷も考慮する必要がある。そして、一般向けの公開も重要だが、まず市の博物館管理・運営担当部局に資料収集・保存施設の価値・重要性を理解してもらうための内部公開も必要と思われる。

館長 これまで学芸員がいなかった自然分野に川島学芸員が来て3年、これまで収蔵庫の体を成していなかった状態から大きく改善・充実が図られている。この変化について、市の行財政改革、総合計画部署の担当者を招き、年2回3年にわたり、延べ100名以上が見学している。博物館及び専門職員のあり方等の庁内検討にあたり、関係者の理解につながっていると考えており、引き続き見学を行いたい。

一般向けツアーの実施については、実施方法には十分な検討が必要だが、長年にわたる当館の取組み成果、魅力の1つとして見てもらい、館の魅力向上につなげたいと考えている。

(2) 教育普及事業 新規事業について

委員 各分野でいくつか新規事業があり、これまでの事業を見直したもの、純粋な新規事業があると思われる。全体の業務バランスとして、余裕をもって対応できる体制が確保できているか。業務の上乗せが多いと負担も大きくなる。

事務局 自然分野の新規事業「昆虫観察・撮影講座」は、平成28年度の「子どものための植物学・昆虫学教室」に続くものであり、純粋な新規事業は「バックヤードツアー」のみである。

事務局 土日祝日のプラネタリウム一般投影を4回から5回に増やす。限られた開館時間内で対応するため、子ども向け投影の時間を45分から35分に短縮、入場開始時間を投影20分前から15分前に変更。天文担当、受付職員ほか館内で検討を重ねており、多少の負担増だが十分に対応可能と考えている。

新規の「天文観察講座」は、これまでの小学生向け「星空教室」について、平成28年度に6回のうち2回を高校生以上を対象として実施した。高校生以上でも要望が多いことが確

認できたため、平成29年度は4回をこれまでの「星空教室」、2回を高校生以上対象の「天文観察講座」として実施する。回数としては同じであり、負担は少ないと考えている。

平成29年度予算について

部会長 予算において特筆すべきものはあるか。また、今後の新たな予算措置は見込めるのか。

事務局 29年予算は前年度よりやや増。1億1,800万円だが、その多くが義務的経費であり、事業実施に伴う経費は数百万円程度。近年の予算編成はシーリング枠をかけられており、限られた予算内で見直しを図ってやりくりしているのが現状であり、新規の予算増は難しい。

学校連携について

委員 小学校理科学研究会では、毎年夏に生田緑地で自然観察会を実施しているが、近年夏休み期間が短縮され7月下旬は教員も研修等で多忙であり、平成29年度の自然観察会は中止したい。一方、科学館で計画されている各種観察会、体験教室等について、保護者向けに周知したいと考えており、情報提供をお願いしたい。

部会長 科学館において学校との連携は重要であり、ネットワークの構築も含め、連携強化をお願いしたい。

委員 学校とのネットワークについて、市立学校のコンピュータネットワークの構築・運用を行っている総合教育センターと調整し、教員が1人1台使用しているパソコンの掲示板に情報を提供する環境を整備してもらえるとよい。

委員 プラネタリウム学習投影や地層観察等で利用しているが、各校で校外学習の年間計画を立てるにあたり、現状では電話で問い合わせ確認・調整しているが、パソコンで事業の空き状況を確認できるようなシステムがあると、学校現場としては非常に助かる。検討してほしい。

部会長 その他、質問・意見がなければ、平成29年度の事業計画について確認、了承ということでよいか。(異議なし) それでは、この計画により平成29年度諸事業を実施することとする。

6 その他 平成29年度の専門部会スケジュールについて

部会長 専門部会は、以前は協議会として館の運営を中心に指導助言を行っていたが、近年は事業評価が中心となりつつある。委員にとって評価作業の負担は小さい。また、評価を事業実施に活かせる評価策定スケジュールが求められる。このたび、事務局より事業評価スケジュール見直しの提案があるとのことで、説明を踏まえて委員のご意見を伺いたい。

事務局 ●平成28年度の専門部会の状況

・平成27年度事業評価作業を8月前後に各委員にお願いし、第2回専門部会(11月)で承認。前年度の事業評価を当該年度の後半に公表するという状況である

●平成29年度の事業評価スケジュール

・前年度事業評価の結果を当該年度の事業展開や次年度の予算要求に反映できるよう、これまでより評価作業時期を前倒しする。平成29年度の事業評価は、年度内の平成30年3月末までをお願いしたい。これは日本民家園と同じスケジュールである。

- ・年度内に29年度評価を行うとともに、その前に平成28年度評価も行う必要がある。こちらは5月を中心に作業をお願いし、7月上旬頃までに専門部会を開催して確定したい。
- ・現委員の委嘱期間が平成30年4月末であること、事務局の市職員異動時期が4月であることを考えると、年度末までに当該年度の事業評価を行うというスケジュールが適切と思われる。過渡期として29年度は2ヶ年の事業評価を行うことになり、負担が大きくなるが、ご理解・ご協力をお願いしたい。

資料： 資料6「青少年科学館専門部会 今後のスケジュールについて（案）」

【質疑応答】

委員 平成29年度事業評価を年度内に実施するという事は、年度途中の段階で評価を行うことになるが、それでよいのか。

事務局 2月頃の段階で自己評価資料を作成することになり、一部未実施・実施中事業がある中で評価作業となるが、全体の傾向・見込みで評価をいただき、4月に入り確定した事業実施報告、入館者数等統計資料を委員に提供し、評価の最終確認をお願いしたいと考えている。

委員 2ヶ年分の事業評価を行うことになるが、それぞれ自己評価が異なる形で出てくるのか。前年度と変わりなく自己評価「3」が出てきたら、どう評価すればよいか。

部会長 事業評価には目的によりいろいろな方法があるが、この部会における事業評価は、年次計画に照らしてどの程度できているか、また、計画を上回る優れた点、下回った点があるかを踏まえて評価するものと考えている。

年度末までに当該年度の事業評価を行うということで、平成29年度に2ヶ年の評価作業を行うことになり負担は大きいですが、委員の協力をお願いしたい。なお、平成28年度事業評価については、4月以降委員の変更があった場合でも、現在の委員が作業を行うこととしたい。

6 閉会

部会長より閉会告知